

第 1 回技術作業班で頂いた主なご意見

○ 以下は、第 1 回技術作業班で頂いた主なご意見を事務局の責任でまとめたもの。

検討項目（1）：医療等情報の二次利用におけるデータ標準化、信頼性確保

- 各医療機関に対し、各マスターの管理手順のようなものを示すことができれば信頼性確保に有用なのではないか。各医療機関においては、必ずしも知見がない担当者がデータ管理をしている状況があるため、ガイドのようなものがあると参考になる
- 6 情報はOMOPとの相性もよいと考えられる。国際共同研究もしやすくなると思うので、二次利用を進めていくことが重要
- データを利活用するためには標準化が非常に重要ということはこれまでずっと指摘されている。なかなか進んでこなかった背景があるが、今後進めるためには、イニシアチブをとり、要になる組織が必要なのではないか。社会保険診療報酬支払基金が医療DXの推進の主体となるのであれば、医療等情報のルールの発信などを担っていくということが考えられるのではないか
- マスターの整備は重要であると同時に、時系列も含めてコードを整えることが必要。例えば、薬剤のYJコードでも、販売会社が変わればコードが変わる。経時的な分析を行う際に、コードが変わっていてできないことがあるので、時系列管理も念頭に整備していくことが必要
- 民間DBにおいては、マスタの整備やデータの読み替えに、多数の工程をかけて行っている。効率的な処理を行っていくということには賛成。また、データの欠けは、情報連携基盤上では補えないので、入力時点、医療機関において標準化されたものが入力されていることが大事。データの上流で、医療機関に入力していただくことと、情報連携基盤側でマスターの整備などを行うこと、しっかり分けて議論をすることが大事
- データの品質に関して、レギュラトリーの目的に耐えうる品質を担保していくためには、MID-NETの取組が参考になる。この作業班でも議論を深めていくべき
- 薬剤でも検査でも、コードが様々ある。それぞれ何のコードが使われるのかということを念頭に議論することが重要。ICDについては、ICD10からICD11に変わっていく議論もあると思うが、ICD10とICD11は仕様が大きく違い、ICD11を使うことで滞る面もあると思うので、注意が必要。JLAC10についても、JLAC11に変えるのはなかなか難しい面があり、関係者と議論していくことが重要。公的DBとして品質保証する部分は二次利用の部分だと思うので、範囲をよく理解して議論することが必要ではないか
- データの標準化については、ある程度ルールを決めて、入力側が強制力やメリットを感じるような形でグリップを行っていくことが必要ではないか

第1回技術作業班で頂いた主なご意見

検討項目（2）：情報連携基盤に関する検討事項

- HICを拡張するのか、新たな情報連携基盤を作るのかという部分で違う部分はあるかと思うが、いずれにしても**安全管理措置の部分はHICに寄せればよいのではない**か。一方、**利用者側に求める要件については**、利便性を考慮して、利活用者が使いやすいように、何が使いにくいのかをHICを参考にしながら、**簡略化できるようにしていくのがいいのではない**か
- セキュリティの点では、ガバナンスを標準化する観点だと、**HICのセキュリティの監視の部分は踏襲して共通的に使っていくというのがあり得るのではない**か。新たに基盤を作るということであれば、管理も二重三重になり、セキュリティホールになり得る。クラウドであれば、比較的安全にゾーンを区切れるので、それぞれのゾーンで目的にあった使い方をしていくことが考えられる。**Visiting環境については、許されたユーザーだけアクセスできるということであれば、ガバナンスも担保できるし、利便性もあがると思う**
- セキュリティの要件を考えるに当たっては、**リスクベースで議論することが必要**。Visiting環境でどのような情報が扱われるのかというのが議論の前提になると思われるので、議論の順序については配慮が必要
- セキュリティは安全に倒すと、いくらでもコストがかかるし利便性も下がる。絶対に守るべきものと、ある程度流通してもいいものとして**格付けをつけて、セキュリティ対策を行う方向性もある**。また、ゼロトラストという概念があるが、専用線を使うと高価になるのため、ネットワーク上はゼロトラストということでは信頼せず、**利活用者の身分を証明していただくことによるセキュリティ対策を講じていくべきではない**か
- 技術的なセキュリティだけでは難しい部分もある。利活用者の倫理感を醸成するため、**一定の講習を受けていただくような対策も重要**